

## 2020年第2四半期 国内携帯電話・スマートフォン市場実績値を発表

Japan, 2020年9月7日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (所在地: 東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長: 竹内正人、Tel代表: 03-3556-4760) は、国内の従来型携帯電話およびスマートフォン端末の2020年第2四半期 (4~6月) の出荷台数を発表しました。

2020年第2四半期、国内市場の従来型携帯電話およびスマートフォン端末の合計出荷台数は、前年同期比7.7%増の762.2万台となりました。前年同期比で増加した主な要因としては、アップルから発売された新型iPhone SEが好調な出荷を実現したこと、Android勢では中間~低価格帯での出荷が目立ったことや、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響で発売が遅延していた5G対応モデルの発売があったことなどが挙げられます。OS別では、Android系は前年同期比4.0%増の448.3万台、iOSは同17.4%増の307.8万台となりました。

本四半期をベンダー別で見ると、アップルは前年同期比でシェアを3.3ポイント伸ばし、40.4%でトップを維持しました。2位は102.7万台を出荷したシャープ (シェア13.5%)、3位は86.0万台出荷のサムスン (同11.3%)、4位に71.0万台出荷の富士通 (同9.3%)、5位は64.5万台出荷のソニー (同8.5%) となりました。

スマートフォンの出荷台数は756.1万台 (前年同期比9.1%増) となりました。

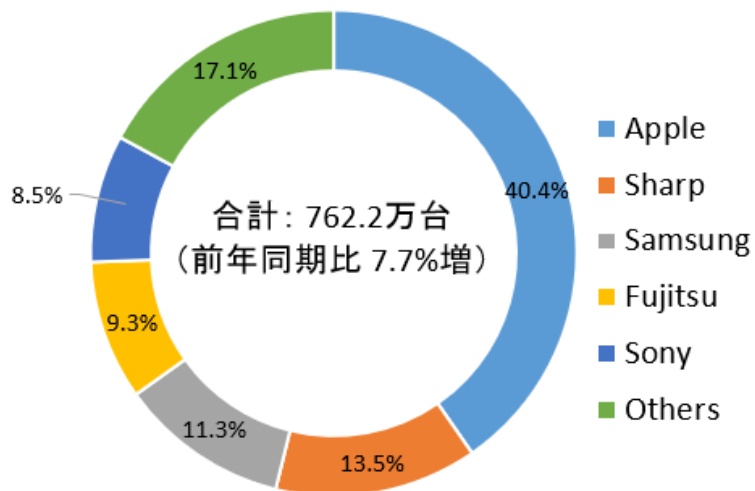
「2020年第2四半期はCOVID-19が原因で出荷が減少することが懸念されたが、新型iPhone SEの発売など様々な要因のおかげで、前年同期比でプラスの成長をすることができた」とIDC Japan PC, 携帯端末&クライアントソリューションのシニアマーケットアナリストである菅原啓はコメントしています。これに続けて、「しかしながら、GDPの成長率など各種指標はCOVID-19の影響で悪化しており、今後その影響が本格化してくる可能性も視野に入れる必要がある」と述べています。

今回の発表はIDCが発行した  
Worldwide Quarterly Mobile Phone  
Tracker 2020Q2にその詳細が報告  
されています。

< 参考資料 >

2020年第2四半期 国内市場携帯電話  
出荷台数・ベンダー別 シェア

Figure 1



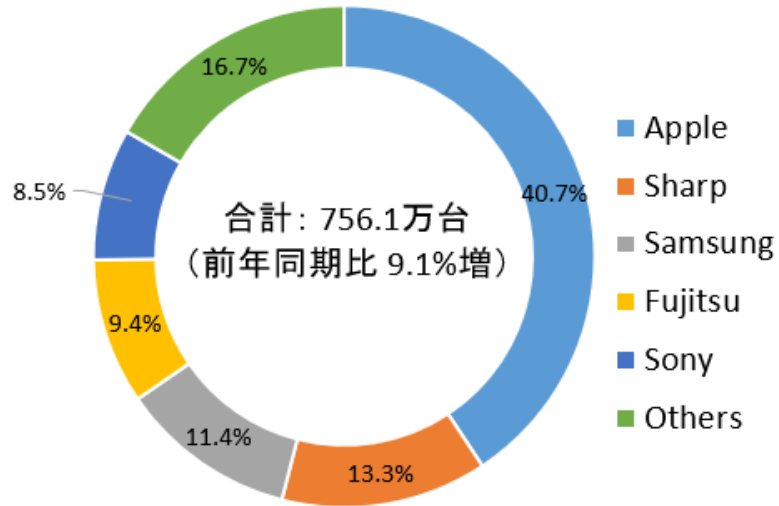
※従来型携帯電話を含みます。

※端数処理[四捨五入]の影響により  
合計値の末尾が一致しません。

Source: IDC Japan 9/2020

2020年第2四半期 国内市場スマー  
トフォン出荷台数・ベンダー別  
シェア

Figure 2



※従来型携帯電話は含みません。

※OSにAndroid系を採用している  
折り畳み式のものもスマートフォン  
に含みます。

Source: IDC Japan 9/2020

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at [www.idc.com](http://www.idc.com). All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan  
[jp-press@idcjapan.co.jp](mailto:jp-press@idcjapan.co.jp)  
 +81-3-3556-4768